

特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金

事業報告 第3号 (2005年度)

(1) 学用品支援事業・・・就学生へ文具品の寄与

昨年と同数の就学児童及び成人、合計 193 名へ年間に必要な文具品を寄与できました(表 1)。文具を購入できない家庭は、学用品支援を本当に喜んでいます。子供達の両親は支援者の皆様にとっても感謝しております。

表1 文具品を寄与した就学生

バル・ピパル学校	108
夜間成人クラス	51
パンチャ・カンニヤ学校	9
シャンカ・デヴィ学校	25
合計	193

(2) 奨学資金支援事業・・・第4回奨学生の決定及び文具品寄与

隣村バゲソーリ、ラマスタン、マナルピの各学校(初等部)から「優秀な奨学生の数を増やして欲しい」という要請がありましたので、今回はさらに 52 人を対象として追加しました。以前はこれらの各学校で 1 位になった生徒 3 人だけを対象としていました。

また、サッレ村内外の優秀な就学生 106 名に奨学金を寄与しました(表 2)。このうち、パンチャ・カンニヤ学校から 1 学年に 2 人が 1 位、2 学年に 2 人が 4 位になっています。今回も昨年と同様、多くの生徒達が前回の奨学生でした。

バル・ピパル学校で行われた奨学品授与式には 106 名の生徒とその保護者、教師、サッレ村の人々が集まったため大変な参加者数となり、お祭りのようでした。式典のスピーチでは奨学生達のご支援の皆様と当奨学基金への感謝の気持ちを述べました。

表2 優秀な奨学生

学年	女	男	計
バル・ピパル学校			
1	2	2	4
2	3	1	4
3	4	0	4
4	1	3	4
計	10	6	16
夜間成人クラス			
1	4	0	4
2	4	0	4
3	4	0	4
計	12	0	12
バゲソーリ学校			
1	1	3	4
2	2	2	4
3	2	2	4
計	5	7	12
パンチャ・カンニヤ学校			
1	3	2	5
2	2	3	5
3	2	2	4
4	2	2	4
5	2	2	4
計	11	11	22
ラマスタン学校			
1	2	2	4
2	3	1	4
3	3	1	4
4	2	2	4
5	2	2	4
計	12	8	20
マナルピ学校			
1	1	3	4
2	1	3	4
3	1	3	4
4	2	2	4
5	0	4	4
計	5	15	20
シャンカ・デヴィ学校			
6	0	2	2
7	0	1	1
8	0	1	1
計	0	4	4
合計	55	51	106

(3) 識字率向上支援事業・・・脱穀機導入の成果

昨年度に購入した脱穀機は問題なく作動しています。以前は婦人達が毎日夜明け前に起きて脱穀作業していましたが、現在は脱穀機のおかげで男性と同じ時間まで睡眠をとることができています。多くの婦人達が脱穀機のサービスを受けながら勉強に励んでいます。また、小中高学部の生徒も家で毎日脱穀をしなくても良いため、勉強時間が増えました。

しかしながら、前回皆様に報告した「脱穀機使用に関するルール」について年齢や出席率に関する問題が生じました。50 歳以上の方が学校に出席しなくても半額で脱穀機を使用できるようにしたため、成人の生徒数が減りました。

また、出席率の足りない一部の家庭や勉強に興味を示さない家庭が、「脱穀機の使用施設を建設する際に無償で労働力として協力したので、出席率が足りなくても半額で使用したい」と主張するようになりました。確かに、使用施設の建設には労働力として村の 4 5 世帯から 5 日間ずつ延べ 225 人のボランティア協力がありました。

その後、7 月に村人達とリジャルでどうしたら良いか話し合った結果、協力した村人全員の労働力に相当する賃金約 4 万円を当法人から資金として渡し、村の共同貯金に加えることにしました。そして現地の委員会と相談して脱穀の使用に関するルールを以下のように作り直しました。

- a. 各所帯に対して、1人の就学出席率が月50%以上であれば、その所帯は半額で脱穀機を使用できる。月50%以下の場合、使用料は全額料金となる。
- b. 70歳以上の高齢者しかいない所帯の場合、体力的に就学が困難なため半額で脱穀機を使用できる。

今年8月からこのルールを適用し、11月の時点では殆どの家庭から婦人が1人ずつ勉強に来て、脱穀機を半額で使用しています。

皆様の中には、最初に決めたルールを守らない村人の姿勢に疑問を抱かれる方も多いと思います。ネパールで地元の人々と協力して何かを始める時に、必ずと言って良いほどよく起こる問題です。

多くのネパール人は「自分達が守れないルール」をしばしば作ってしまいます。彼らは実際にやってみないと、そのルールに従えるかどうかかわからないようです。しかし、こちらが短気を起こさずルールを強制せず、一緒にもう一度話し合っ解決法を模索すれば、彼ら自身の判断で責任をもって新たなルールに従おうと努力するであろうと私達は考えています。



写真1 (左上)脱穀機の施設 (左下)脱穀機械 (右)管理人

(4) 広報活動 ①…特定非営利活動法人ブッダ基金による教育ご支援

昨年从今年にかけて、リジャルは「ブッダ基金」の定期総会や会議に数回出席させていただいております。ブッダ基金の事業内容のひとつに「ネパール山村地域に住む人々への識字教育援助」があり、ブッダ基金の方が私達の活動に興味を持って下さいました。そして、サッレ村に中高等部(6~10 学年)を建設し教育支援を行ってはどうかという私達の提案を検討して下さいました。お忙しい中、ブッダ基金の山口貴司先生、水野功氏、田村譲二氏が今年7月にネパールを訪れカトマンズでサッレ村の人々と会議を行い、帰国後ブッダ基金内で協議した結果、村を支援して下さいました。リジャルはブッダ基金が必要としている村の実情や情報提供のために、アンケート方式でサッレ村の人々の暮らしについて調査しました。給食・村の私立小学校・小学児童のライフスタイル・家庭などに関する事です。まず、ブッダ基金と一緒に日本語でアンケートを作成し、ネパール語に翻訳し、村の学校の教師達にアンケートの聞き取り調査を依頼しました。サッレ村の115人の生徒、45軒の家庭から回答が得られ、これを日本語に翻訳してブッダ基金に渡しました。現在、ブッダ基金の田村氏と静岡大学教育学部附属浜松中学校の5人の生徒さんが中心になって分析中です。このような大々的な村の調査は初めてですので、結果データを楽しみにしております。また、高校の建設・運営のための私達の計画書もブッダ基金に提出致しました。

サッレ村に中高等部の学校ができることは、私達も村人も生徒も以前から望んでいることでした。私達を信頼し村人に期待して下さいるブッダ基金の理事の方々にたいへん感謝しております。また、今回ネパールを訪れて下さった際に文房具も贈呈して下さい、有難うございました。私達は責任をもって皆様の教育支援を成功させるために最大の努力を致します。なお、ブッダ基金の活動につきましては、こちらのホームページでご覧になれます。<http://www.buddha-f.com/>

広報活動 ②…財団法人アジア 21 世紀奨学財団での発表と記事の投稿

リジャルが私費留学生だった頃に、2年もの間アジア 21 奨学財団から奨学金を毎月いただいております。そのご縁で今年春、財団の京都支部研究発表会にてリジャルは大学での研究や社会活動について約 1

時間半も発表する機会をいただきました。その後、財団の季刊誌「結（Yui）」32号に「ネパールの教育改善に生まれたバル・ピパル奨学基金」というタイトルで6ページの特集記事を掲載させて頂きました。当法人の活動内容の発表や広報の機会を与えてくださいました財団京都事務局の原田かの子氏にはたいへん感謝しております。また事務局長の角田英一氏には記事の導入文を書いて頂き、山足美起子氏には原稿を編集して頂き、誠に有難うございます。皆様のおかげで私達の趣旨を多くの方々に伝えることが出来たばかりではなく、私達の考えをわかり易くまとめる良い機会にもなりました。たいへん嬉しいことに、この記事のおかげでご支援して下さる方もさらに増えました。アジア21世紀奨学財団の詳しい活動につきましてはこちらのホームページでご覧になれます。<http://www.nipponrentacar.co.jp/asia21/>

広報活動 ③・・・京都中ロータリー・クラブによる教育ご支援

今年4月から京都中ロータリー・クラブ（以下京都中RC）の集会等にたびたび参加させて頂き、幼稚園の教師の雇用支援をお願いする趣旨の計画書を京都中RCへ提出しました。通学を希望する4～5歳児が増え1学年クラスの人数が非常に多くなり、幼稚園の必要性を感じていたためです。そしてご検討の結果、当法人経由で支援して下さることになり、今年5月14日、京都中RC100周年記念事業のフォーラムにて教育支援事業が発表されました。また、会場展示用に私達の活動内容を説明するA2サイズの大きなパネルを3枚作成して下さり、出席した野原理事長とリジャルが活動のご案内をさせて頂きました。さらに6月20日の第631回例会では、リジャルが活動内容やサッレ村の生活についてスライドを使って約30分間講演を行いました。

その後、幼稚園の教師に関しては今年7月にリジャルがネパールで村人と話し合い、Ms. Kanchhi Maya Gurungを採用することに決めました（写真2参照）。彼女は高校を卒業したばかりで、父親は村で有名な大工さんです。今後の彼女の活動に期待します。ネパールでは学校の建設などハード面の支援は多く見られますが、人材確保や育成というソフト面の支援は少なく立派な校舎があっても教える教師が雇えず学校運営が継続できないという話をよく聞きます。京都中RCの皆様には、私達の要望を理解して頂きとても感謝しております。

また、会場展示用に作って下さったパネルは京都中RCのご好意で当法人が戴けることになりました。宣伝効果の高いパネルですので、今後も大いに活用させて頂きたいと思っております。京都中RCの平井達雄氏、北條誠氏、鈴木基一氏と皆様には大変お世話になりました。厚く御礼を申し上げます。

今後の活動方針につきましては、こちらのホームページでご覧になれます。

<http://www.nakarotary.org/>



写真2 幼稚園の先生

(5) 図書館設立支援事業・・・第2期 設立準備金の積立継続

今年度で、サッレ村に図書館を設立するための準備金の積立金が20万円になりました。日本国内で毎年10万円を10年間積立て、合計100万円を目指します。この準備金には図書館の建物の建設費、机やイスなどの設備費、書籍費が含まれます。

(6) 寄付金収入及び正会員数

42名様8団体様のご寄付により、合計564,630円集まりました。また、正会員が3名増えて合計16名となりました。ご支援を有難うございます。

(7) 現地の公的機関 NGO としての登録

サッレ村の受入れ活動委員会が、Bar Peepal Scholarship Foundation (バル・ピパル奨学財団) として現地 Dhading 郡の役場に公的機関として登録をしました。これによって、現地の信頼できる活動団体となりました。

最後に・・・

今年は、昨年にも増してさらに多くの方々に会い、ご支援をいただくことができました。本当に有難うございます。今回、ブッダ基金と京都中 RC の皆様からご支援をいただくきっかけとなったのは、台湾出身の京都大学大学院生の呂佳蓉氏のおかげです。

呂氏はリジャルと同じ、アジア 21 世紀奨学財団の元奨学生で、日頃から当法人の活動を応援して下さっていました。呂氏はまたロータリー米山記念奨学生でいらっしゃったので、京都中 RC の会員の方々とリジャルを引き合わせて下さいました。

また、呂氏は京都中 RC の集会でブッダ基金の山口理事長とお知り合いになられ、その後リジャルに山口先生を紹介して下さいました。呂氏のご親切とアドバイスにとっても感謝しております。

第2期収支計算書

(平成2004年1月1日～12月31日)

(単位:円)

科 目	決算額
I 収入の部	
1 入会金・会費収入	
正会員入会金収入	15,000
正会員会費収入	130,000
2 寄付金収入	
寄付収入	564,630
3 その他収入	
利息収入	3
当期収入合計(A)	709,633
前期繰越収支差額	150,319
収入合計(B)	859,952
II 支出の部	
1 事業費	
① 広報活動事業	24,920
② 学用品支援事業	65,000
③ 奨学資金支援事業	8,000
④ 識字率向上支援事業	206,000
⑤ 書籍購入支援事業	0
⑥ 図書館設立支援事業	100,000
2 管理費	
通信費	6,350
印刷費	0
消耗品費	1,437
雑費	2,715
振替手数料	4,930
3 予備費	0
当期支出合計(C)	419,352
当期収支差額(B)-(C)	440,600
次期繰越収支差額	440,600

2005 年 12 月 特定非営利活動法人バル・ピパル奨学基金